

成長ストーリー

時代のニーズとともに、新しい価値・製品を創出します

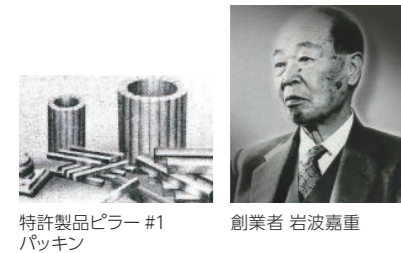
当社は創業以来95年以上にわたり、成長する産業が求めるニーズに応え、また新たな素材にいち早く着目して製品化を目指すことで、持続可能な豊かな社会の実現に貢献してきました。これからも固有の流体制御技術を進化させながら、独創的で高品質な製品・サービスを提供していきます。

1920

創業～生産体制の確立

主なニーズ：船舶

かつて機関士であった創業者の岩波嘉重が、耐摩耗性の高い船舶用筒型パッキンの開発に成功。1924年、現在の神戸市灘区の馬小屋跡地でスタートした個人経営の「ピラーパッキン工場」が、当社の歴史の始まりです。1926年に大阪市淀川区に工場を新設し、工業用漏れ止めパッキンの本格的な生産を開始します。1930年、ピラーパッキンが当社初の実用新案特許登録。1932年には自動車用及び船舶内燃機用のガスケットの生産をスタートさせました。



特許製品ピラー #1 パッキン
創業者 岩波嘉重

1940

技術開発の躍進

主なニーズ：エネルギー

1948年に「日本ピラー工業株式会社」を設立し、東京出張所（現東京支店）を開設。1951年に日本初のメカニカルシール（軸封装置）を開発し生産を開始します。高温・高圧管フランジ用パーティクルガスケットの開発と、ふっ素樹脂製品の生産を開始したのはその翌年です。兵庫県三田市に1967年に竣工した三田工場は業界初のJIS・B・2404配管用うず巻形ガスケットJIS認定工場に。1970年には新素材「炭化繊維」を開発し、生産を開始しました。



日本初のメカニカルシールを開発、生産開始（1951年）
兵庫県三田市に三田工場が竣工（1967年）

1980

ブランド確立、世界進出へ

主なニーズ：自動車

1980年に本社社屋を新築竣工し、翌年ISOシリーズメカニカルシールの生産を開始。1984年、大阪証券取引所市場第二部特別指定銘柄に。時代のニーズに応じた新製品を次々と開発し、半導体製造装置向けふっ素樹脂の継手や膨張黒鉛編組パッキンの生産を立て続けに開始しました。1989年、京都府福知山市に福知山工場（現福知山事業所）が竣工。1995年に大阪証券取引所市場第二部に指定替え。ISO認証を取得し、顧客に信頼されるブランドを確立していきます。



ISOシリーズ 攪拌機用メカニカルシールの生産を開始（1981年）
京都府福知山市に福知山工場（現福知山事業所）が竣工（1989年）

2000

現在の躍進につながる新事業の創出

主なニーズ：半導体

2001年、東京証券取引所・大阪証券取引所市場第一部に上場。2002年に世界初の画期的なシール機構「スーパー300タイプピラーフィッティング」を、翌年にはノンアスベスト化への早期切り替えに寄与する「#2603-EEEテクノブラック」の生産を開始しました。2004年、熊本県合志市に九州工場を竣工。半導体市場向け新型ロータリージョイントは2012年から生産を開始しました。2017年に大阪市西区に本社を移転しています。



世界初の画期的なシール機構を実現した「スーパー300タイプピラーフィッティング」の生産を開始（2002年）



熊本県合志市に九州工場を竣工（2004年）

2020

市場の変革を捉え、持続的な成長を目指す

主なニーズ：脱炭素、新エネルギー

2000年前後から海外拠点を次々と設立し、販路を世界へと拡大。次世代を担う製品の開発と半導体市場拡大に備え、2020年には新・三田工場を竣工しました。東京証券取引所市場第一部からプライム市場に移行した2022年、売上高・営業利益ともに2年連続で過去最高を更新。さらなる企業価値の向上を目指して事業・組織の変革を続け、次世代を担う新しい素材・技術の開発に力を入れています。



新・三田工場竣工（2020年）



タンケンシールセロコウをグループ化（2023年）

